

～かなみっ子のすこやかな成長、質の高い乳幼児教育と保育を目指して～



つながる



函南町幼児教育センターだより 14号

令和7年9月発行

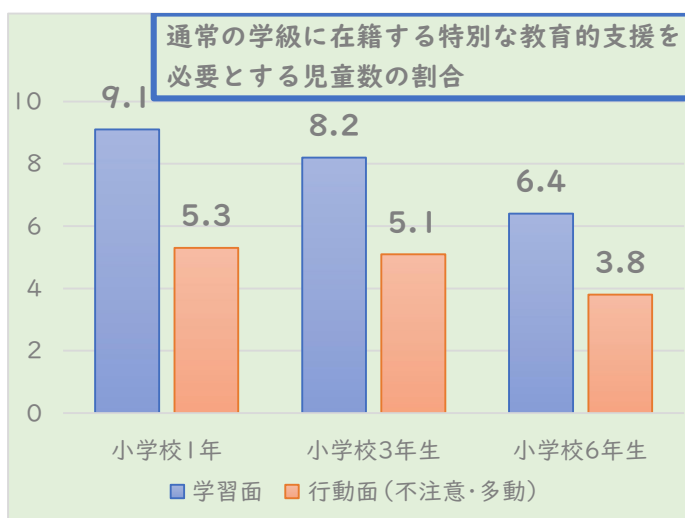
連絡先 学校教育課内
幼児教育センター 979-8121

赤塚先生の講演

8月20日(水)に赤塚めぐみ先生(常葉大学保育学部准教授)をお招きし、「なぜ、あそびが大切か」ということについて講話をしていただきました。講話の冒頭に、園と小学校の「支援」の認識の違いについての話がありました。園の先生は「支援」というと「行動面(多動、不注意、情緒など)」を考えますが、小学校の先生は「学習面」を考えるそうです。

小学校1年生の「読み書きのつまずき」は全ての教科のつまずきにつながっていきます。

<以下、赤塚先生の講演・資料より>



<引用:赤塚先生講演資料 文科省 2022 に基づき作成>

架け橋期の子どもは、「ことば」を介して世界を広げていきます。それは口頭での「話しことば」から文字による「書きことば」への拡大期でもあり、とても大きな変化でもあります。また、「ことば」にはコミュニケーションという役割の他に、思考したり行動を調整したりする役割もあります。思考することによって考えが整理できるようになり、見通しをもって行動したり、気持ちの調整が上手になったりします。ことばの学習が大切だからといって、小学校へつなげるために、園でひらがなの読み書きを先取り学習しなさいということではありません。「文字への関心・感覚」は、文字を用いずとも育ててことができます。

例えば、「絵本の文字を追う」「身近なことばを見つけられる」「カルタあそびを楽しむ」「お手紙ごっこを楽しむ」等のあそびの中で、感覚があいまいなので、「ことばに使われている音を聞き分けられる」「ことばに使われている音の順序が分かる」「聞いた言葉を逆さ言葉として言える」「絵や図、文字の『向き』を見分けられる…」等の段階的な支援が大事です。

「年長だから文字に触れさせなくて」と、歌詞カードを出していくという機会がありますが、それは重要なことで今まで通りやっていただいてもよいのですが、「文字ってよく分からない」と、学びのステージが進んでいけない子どもたちにとって遊びの中で楽しく促していくことができるのは、幼児教育の段階だけです。

教育現場で「はい、集中!」と耳にすることがあります。「集中する脳」は、「わくわく」しているときにいちばん育つということが実験的に分かっています。集中できる子を育てるためには、わくわくする遊びにたくさん取り組ませることが大事です。幼稚園教育要領の「好きなあそびにとことん取り組む」で十分いいのですが、学びにくい子どもたちにとっては、苦手なところを楽しく支援する底上げを丁寧にしていく必要があります。

子どもたちが「楽しい!」「簡単!」と思える活動を「あそび」に取り入れ、丁寧に設定したり、遊びなおしてみたりして取り入れていくことでうまくいくことがあるならば、皆さんと一緒にやっていけたらと考えます。

また、子どもに「やる気がない」という言葉が使われることがあります。それは子どもが成果に結びつかないことを繰り返し体験することで、自分が無力であると学習するから出てくる現象です。無力感を学習せず、のびのび学ぶための支援が必要だともお話をしました。

幼児期に育みたいことばを支える4つの力

幼児期だからこそ培っておきたい力「ひらがなの読み書き学習を支える力」の紹介がありました。講演の中で、文字への関心・感覚は文字を用いなくても育てることができ、保育のすき間時間でも簡単にできる学習を支える4つの力を育むための手あそびを紹介してくれました。「あそび」のコツは、上手にやることよりも楽しく参加することです。また、どうやるのか分かっていないかなと思われる子がいるときは、視覚的に示す支援があるとわかりやすいということでした。文字への興味・関心が低いように見える子や、文字を読みたくても読む力が育ちにくい子が、文字に自然になじんでいくためには、基礎となる音韻意識・視空間認知・聴覚記憶・基本語彙の4つの力を丁寧に育てていくことが大切です。この支える力は直接文字に触れなくても育つものであり、4つの力は、幼児教育の中で取り組まれている「手あそび」や「ことばあそび」の中で育てることができます。

詳しくは『静岡県幼児教育センターから出ている「spring プロジェクト 幼保小接続期から学びにわくわくを!」』をご覧ください。「支える4つの力」、「てあそび」、「ことばあそび」が紹介されています。

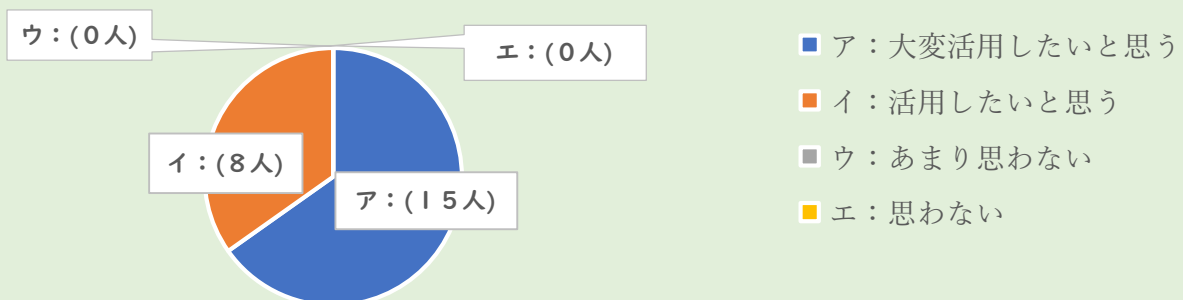
P84「幼保小がつながる」も接続の参考にしてください。



[講演後のグループワーク]

アンケート結果より

1 本日の研修内容を、これからの保育に活用したいと思いましたか。



2 上記のように回答した理由をお書きください。(意見はそのまま掲載してあります。)

- やる気が起きない子どもたちの原因は、私たち保育者が関わっているため、遊びながら学ぶということが大切であるということを知ることができたから。また、手あそびなども教えていただき実践したいと思えたから。
- 言葉遊びをすき間時間で楽しんでいくことで、子どもたちがどの様に変わっていくか見てみたい。
- 今まで保育の中に取り入れていた遊びではありましたが、言葉の育ちを意識して取り入れていくことで、子どもの発達、支援につなげていきたいと思った。また、言葉の拡大型をもっと意識していきたい。
- 普段行う手あそびの中に、言葉を育む要素がたくさん入っていることに今まで気づきませんでした。“わくわく”する活動を取り入れていきたいと思いました。
- 普段、何気なくしている活動でも、意識して行うことで目的もはっきりあると思いました。常に意識をして保育を行うことが大切だと感じました。
- 普段の保育、すき間時間に言葉遊びをして、楽しみながら小学校への土台づくりをしていきたいです。ワクワクする遊び、保育をしていきたいです。
- 自分も子どもも楽しくできそうで、やってみたいと思いました。自分が楽しんだり、遊びに入って早くやったりしたいと思いました。言葉の育ち、思考力を楽しく伸ばしたいです。
- 言葉遊びから身に付けていけるようにしたいと感じた。子どもたちが「やってみたい」「自分にもできる」とやる気をもって遊びに参加できるように声かけをしたいと思う。
- 文字への感覚をもち、小学校へとつなげていきたいと思いました。

○普段の遊びが、言葉の学びにつながっていることに気づいた。先生たちの遊びの中で、価値付けしていくことができたなら、先生たちの学びや充実につながると思った。

『静岡県幼児教育センターから出ている「spring プロジェクト 幼保小接続期から学びにわくわくを！」
＜静岡県インクルーシブ教育保育研究「Spring プロジェクト」より転載＞
<https://www.pref.shizuoka.jp/kodomokyoiku/school/kyoiku/1003777/yojikyoku/1031800.html>

ひらがなの読み書き学習を支える力とは



音韻操作

「あひる」には
3つの音があるね。



ひらがなを読むためには、ことばがいくつの音から成り立っているのかを分析する力（音韻分解）や、ことばから特定の音を取り出す力（音韻抽出）が必要です。

ひらがな単語をすらすら読むためには、ことばから音を消す力（音韻削除）が大切です。

聴覚記憶

「2、3」って
数字を真似して
言ってみよう。



「くまる」って
真似して
言うんだね。

ひらがなだけでなく漢字の読み書き学習においても、聞いて記憶する力（聴覚記憶）は影響します。

特に、ひらがなを読むためには、「くまる」のように意味を成さない単語（非単語）を覚えて、復唱する力が関係するようです。



視空間認知

【見本】



同じ形は…？



文字は視覚情報なので、正しく読むためには「見る力（視空間認知）」が必要です。

「い」と「こ」は、似た部品が向き合っていますが、縦方向の線と横方向の線の違いが分かったら、違う字であることが分かります。

このように、形の向きを正しく判断できることが大切です。

基本語彙

お話を聞くの
楽しいな。



意味が分かったら
ことばが耳に
残りやすいね。

日常生活や絵本に出てくることばの意味が分かることは、音韻操作に先立つと考えられています。

語彙が豊富であることは、読み書き学習の助けになります。

これらの力が身につくと、ひらがなを読んだり、書いたりする準備が進んでいきます。